

令和7年度 兵庫県・神戸市調整会議 議事録

令和7年12月15日（月）16時30分～18時00分

神戸市役所1号館14階大会議室

【開会あいさつ】

（久元市長）

齋藤知事、服部副知事、山口議長、大豊副議長また兵庫県幹部の皆様には日頃から神戸市政に対して力強いご支援をいただき、また本日は神戸市役所までご足労をいただき感謝申し上げます。

各分野にわたりご指導、ご支援をいただいているところだが、今年1年を振り返ると、震災30年の年であり、兵庫県におかれても様々な行事が開催され、神戸市も参画する機会をいただいたこと感謝申し上げます。

都市の繁栄は強靱な災害インフラの上に初めて成り立つという信念のもとに震災の後、災害に強いまちづくりを進めてきた。このような努力はこれからも続けていきたい。

神戸の街はかなり早い段階で復興したが、その先のまちづくりが中々できていなかったが、10年前に三宮周辺地区の『再整備基本構想』、神戸の都心の未来の姿[将来ビジョン]を作り、様々な課題があったが、1つ1つの施策を動かしながら街の姿が少しずつ形を現してきた。

兵庫県からは三宮再整備、都心の再生に様々なご支援をいただいておりますこと感謝を申し上げます。

また、今年の4月には神戸空港第2ターミナルが完成し、国際チャーター便が定期便に近い形で就航が行われており、神戸空港が国際化し、私たちは新たな国際都市としての可能性を手に入れることができたため、どのような姿にしていくのかというのをこれからも考えていきたいと思っている。ぜひ、これらの具体化にあたりましては兵庫県のご支援をお願い申し上げたい。

同時に様々な資材費の高騰、人件費の高騰、人手不足等、負の問題が目の前にあるということは事実である。これらの1つ1つの課題を前にして、決して立ちすくむことなく前に進んでいかなければならない。いろいろな課題を県市協調で進めていきたいと、課題の解決にあたっていきたいと考えている。

今日は、様々な分野の課題を重点的に議論ができればと思っておりますので、忌憚のない意見交換ができることを期待申し上げます、御礼のご挨拶とさせていただきます。

（齋藤知事）

久元市長をはじめ市幹部の皆様、そして市会から菅野議長、そして川内副議長をはじめ多くの皆様が御参加いただいている。また、今日は県議会からも山口議長や大豊副議長にも参加いただいている。本日はこのような機会をつくっていただいたということ、改めて御礼申し上げます。

県政推進に当たりましては、先ほど久元市長からもおっしゃっていただいたとおり、兵庫県と神戸市の連携、縣市協調というものが不可欠だというふうに考えている。

補正予算も先般の12月議会からも議決いただいたが、長引く物価高騰から県民の皆さんの暮らしを支える、そして事業者の皆様、医療・福祉・介護の現場を支えるということで、900億円に上る補正予算をかけた。

物価高対策としては、「はばタンPay+」の第5弾を4月から実施させていただいたりするなど、物価高騰への影響というものをできるだけ緩和するという形をこれからもやっていきたいというふうに考えている。

そして、久元市長からもお話があったとおり、今年は阪神淡路大震災から30年という節目になる。1月17日には天皇・皇后両陛下に御出席いただき、震災の追悼式典を開催させていただいた。30年という節目の中で、震災から30年経つと記憶等が風化するというふうに指摘されているので、これからはやはり新たなスタートとして大事な一步になると考える。特に若い世代、学生や若い世代の方、震災を経験してない方に、経験と教訓をしっかりと次世代につないでいくということが大事だと思う。

万博も半年間、あっという間に終わり、神戸空港の国際化も一歩ずつスタートしている。インバウンドも増えてきているということだが、やはりオーバーツーリズムなども他府県のようにならないようにしっかり回避しつつ、質のよい旅行者の皆様をできるだけ誘っていくということで「ひょうごフィールドパビリオン」という取組をさせていただいている。これからもしっかりとやっていきたいというふうに考えている。

人口減少・少子化が言われているが、やはり若い世代、若者を応援していくということが齋藤県政の一つの大きな柱ですので、高等教育の負担軽減や県立学校の魅力アップ等、しっかり若者を応援する施策をこれからも行っていきたいと考えている。

そして久元市長のリーダーシップの中で、神戸市は本当に生まれ変わってきている。三宮の再開発、本当に一歩一歩進めていただいているということ、改めて敬意を表させていただく。三宮以外にも、須磨の海岸周辺も本当に見違えるように生まれ変わっているということで、市民の皆様、市民以外の皆様も三宮や神戸市内に来るということで、本当にわくわくするような状況が生まれていると思っている。

兵庫県庁の建て替えについても、議会のほうともしっかりと議論させていただき、機能的でコンパクトな庁舎の設計を目指して基本構想・基本設計に向けて着実に進めていきたいと思っている。また神戸市とも様々な形での連携、以前からこの場でもご意見いただいたが、元町駅のバリアフリー化もきちんとJRと連携しながら進めていくということが大事だと思うので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

【協議説明・回答】

<協議項目 1－Ⅰ 三宮再整備・元町周辺の再整備 説明>

(中原理事兼都市局都心再整備本部長)

資料 6 ページ、右上のパースの一番奥がバスターミナルのⅠ期のビルである。順調に工事が進んでおり、2年後に完成予定である。その手前の白く表現しているのがⅡ期のビルの予定だが、こちらも年度末の都市計画決定に向け手続きが進んでいる。こちらに対する補助金を頂戴しありがたく思っており、引き続きの支援をお願いしたい。

真ん中の大きなビルは JR の新しいビルで、中段右のパースがビルの足元の様子である。ビルの完成に合わせ、神戸市で駅前広場空間を整備するため、支援をお願いしたい。

左下のパースが 2 号館の再整備である。こちらはラグジュアリーホテルを誘致する予定であり、現在令和 11 年度の完成を目指して解体工事を行っている。これらに対する引き続きのご支援をお願い申し上げます。

県庁周辺のまちづくりについて、知事からバリアフリー化に触れていただき感謝申し上げます。県と一緒に検討させていただきたいと考える。神戸市でも駅周辺のリニューアルプランを来年度末を目指して策定に入っている。こちらとの連携もお願いしたい。

(有田総務部長)

元町周辺の再整備について説明させていただく。

兵庫県では新庁舎等の整備や、元町駅北側の「モトキタエリア」のにぎわい創出の基本的な方針として、新庁舎等整備プロジェクト基本構想案を取りまとめ、先月公表したところである。その中で、県庁周辺、モトキタ地域へののにぎわい機能の導入、ウォークアブルな都市空間の創出により、神戸・都心エリアの回遊拠点を目指すという方針を示している。その実現のためにも元町駅西口周辺道路のバリアフリー化や、回遊ネットワークの強化に向け動線の円滑化の検討を行っていく必要があると考えている。特に、基本構想策定にあたり、地元団体から元町駅西口周辺のバリアフリー化に関する意見を多くいただいている。地域の方々の感心が非常に高い課題であることから、構想のさらなる具体化を図るため、道路管理者である神戸市と連携して検討を進めていく必要があると認識している。

神戸市で取り込まれる三宮再整備や元町駅周辺の再整備等々、相乗効果を発揮できるようにするため兵庫県・神戸市一体での推進をお願い申し上げます。

<協議項目 1－Ⅱ 都市緑化の推進 説明>

(原建設局長)

県の顔としてふさわしい街並みを実現していくためには、都心三宮を中心とした公共空間、民有地の高質な緑化事業の推進が重要と考える。これまでも「まちなか花壇」への支援制度の創設などご尽力いただいていた。今後は、県の顔となる公共空間の高質な緑地整備と維持のため、市が主体となって実施する事業を含め、多様な主体による取組の推進、法人等が積極的に緑化事業に取り組めるようにする支援制度の拡充、見直しの実施について、県・市連携して進めてまいりたいと考えているのでお願い申し上げます。

<協議項目 2 - I フィールドパビリオンなどを活用したアフター万博の県内誘客 説明>
(小林産業労働部長)

万博期間中、県内観光地や温泉地の宿泊客数が伸び悩む地域があった。また、冬季の閑散期の落ち込みに対応する必要があると考えている。そこで兵庫県として、万博後も引き続きフィールドパビリオンをはじめとした県内観光地への誘客を促進し、冬の閑散期に対応するため、国内旅行者を対象に旅行会社と連携した「ひょうご五国周遊ツアー事業」や、首都圏や関西圏を対象とした誘客キャンペーンを実施することとしている。神戸市が実施する神戸空港ツアー・観光宿泊サポート制度などとともに県の事業紹介を実施するなど県市協調でのプロモーションをお願いしたいと考える。

また、誘客キャンペーンに向け、ツアー造成につながる観光コンテンツやイベントの情報提供のご協力も併せてお願い申し上げる。

<協議項目 2 - II 空港の国際化を契機とした取組の推進 説明>
(長谷川港湾局長)

神戸空港の国際化を契機とし、航空事業の拡大を図ることによる兵庫県や関西経済の成長に繋げるため、2030年頃の国際定期便就航に向けたビジネス需要の喚起や、県下事業とのビジネスマッチングの推進をお願いしたい。

インバウンド誘客のため、より一層の観光コンテンツの造成やプロモーション強化による兵庫県下の新たな市場開拓、神戸以西の市場開拓とともに広域交通ネットワーク網の拡充についてもお願い申し上げます。

3月から運航開始されている新飛行経路について、地元の意見を踏まえた環境監視をしっかりと継続いただきたい。

<協議項目 1 - I 三宮再整備・元町周辺の再整備 回答>
(松浦まちづくり部長)

三宮の再整備事業、官民が行う公共空間の整備について回答させていただく。

三宮周辺の都心エリアについては、県の玄関口でもある。魅力ある街並み空間を創出することが重要だと十分認識しており、「えきまち空間」の実現に向け、雲井通5丁目地区、6丁目北地区の市街地再開発事業へ補助を行っていく。

「県民まちなみ緑化事業」においても、来年度から神戸市からの意見を踏まえ制度拡充予定である。さらなる都市緑化の支援を行っていくので、積極的な活用をお願いする。加えて、引き続き県としては協調して国に対し予算確保を働きかけていきたいと考えている。

(小林産業労働部長)

国際的ラグジュアリーホテル立地に対する産業立地促進補助金について回答させていただく。

2030年の神戸空港国際化を見据え、海外富裕層やMICEを取り込むため要件緩和を行い、現在神戸市およびホテル設置事業者から事前確認申請を受けているところである。兵庫県

において産業立地条例及び関係規定を照らし、補助対象となるか前向きに検討しているところである。

今後も引き続き、神戸市および事業者と丁寧に連携を図りつつ、補助対象として要件確認ができ次第、速やかに手続きを進める方針である。

(有田総務部長)

元町周辺の再整備について回答させていただく。

元町周辺については、先行している三宮やウォーターフロント等の再整備を連携し、回遊性の向上や滞在時間の増加を図る等、都心エリア全体の活性化を図っていくことが必要であると認識している。そのため、新庁舎等再整備プロジェクト基本構想案を取りまとめ、現在確定に向けてパブリックコメントを踏まえた最終の調整を行っている状況である。この構想では、県の敷地を活用し、周辺で不足している緑地広場を創出し、訪れた方々の憩いの空間とすることをイメージしている。地域の住民の方と街に来られる方、来街者の方が協調、共存できる品格のあるにぎわいづくりを目指しており、民間事業者の提案を踏まえて構想の具体化、まちづくりに向けた取組を進めていくこととしている。その実現のためには「モトキタエリア」の回遊ネットワークの強化が必要であると考えており、引き続き県市連携で取り組んでまいりたい。特に JR 元町駅西口周辺のバリアフリー化に向けては神戸市においてワーキンググループを立ち上げ、駅周辺再整備の検討に兵庫県もオブザーバーとして参加しているので、引き続き連携して検討してまいりたい。

(中原理事兼都市局都心再整備本部長)

元町の関係について、神戸市からも回答させていただく。

神戸市としても元町エリアのまちづくりは大変重要な問題と認識している。それぞれの検討会に双方がオブザーバーとして参加していくということが既に決まっているため、お互い意見交換をしながら引き続き緊密に連携させていただきたいと考えているので、お願い申し上げます。

<協議項目 1－Ⅱ 都市緑化の推進 回答>

(松浦まちづくり部長)

「県民まちなみ緑化事業」については、都心の緑化活動を幅広く支援できるよう令和3年度から5カ年の第4期計画で制度拡充したということである。その結果、三宮エリアにおいては、東遊園地、磯上公園、サンキタ広場、商店街等で活用いただき、神戸市内の事業実績は前期に比べて倍増している。

来年度から始まる第5期事業においては、神戸市からの意見も踏まえ、さらなる制度拡充を予定している。具体的には市の事業であっても住民等と協働して実施する緑化事業を支援対象に追加させていただく。また、高木の樹木等の効果的な緑化に対する補助率、上限額の拡充をさせていただく。駅周辺の1,000平米以上の大規模な緑化を支援する都心緑化の要件緩和や補助率、上限額の拡充等も行なってまいりたい。

都心エリアの緑化整備においては、これらの拡充する制度を積極的にご活用いただくようお願いしたい。

<協議項目 2-I フィールドパビリオンなどを活用したアフター万博の県内誘客 回答>
(大畑経済観光局長)

アフター万博の県内誘客に関しては、兵庫県において9月補正で制度化された五国を周遊する宿泊付きバスツアーの支援制度を、神戸市においても神戸観光局を通じて旅行会社をはじめとした観光関連事業者に制度の活用について周知を行っているところである。引き続き力を入れてまいりたい。

市および神戸観光局が関連するイベント情報と併せて、造成している着地型観光コンテンツの情報についても共有させていただき、兵庫県内への周遊につながる広域観光の推進に引き続き取り組んでまいりたい。

<協議項目 2-II 空港の国際化を契機とした取組の推進 回答>
(宇野土木部長)

空港需要の拡大について回答させていただく。

兵庫県は神戸市、神戸商工会議所とともに神戸空港利用促進協議会の代表幹事として、関西エアポート神戸株式会社と連携し、神戸空港交際定期便就航に向けより一層協力してまいる。具体的には、イベント出展や県民局を通じたビジネス需要喚起や調査。兵庫観光本部と連携した空港周辺地域の情報発信等、県の強みである各関係機関とのつながりを生かした取組みを継続してまいりたい。

空港交通ネットワーク網の充実についても、県内をはじめとした主要都市と空港をつなぐ交通ネットワークの確保に向け、県市共同で取り組んでまいりたい。

新飛行経路に伴う環境監視等の対応については、関西区域の進行については国に要請した高度の引き上げによる運用の努力へ対応いただいております、大きな問題なく運用されると認識している。新飛行経路の運用開始に伴い設置した、淡路地域協議会等の場を通じて、引き続き飛行状況を注視してまいりたい。

新飛行経路の運用に伴い、空港利用者を淡路島へ誘客するための淡路地域振興協議会を立ち上げ、県市も参画していることから、今後も協力して取組を進めてまいりたいと考える。

(小林産業労働部長)

インバウンド誘客のための観光コンテンツ造成、プロモーション強化による新たな市場開拓について回答させていただく。

今年度、神戸空港からの就航地である韓国において、兵庫県の強みであるゴルフや温泉、食、日本酒、フィールドパビリオン等の文化体験等のコンテンツのPRを行った。これらを組み合わせたゴルフツーリズムが航空会社や旅行会社から高い評価を得た。

台湾においても現地旅行会社等へのセールスを積極的に行い、具体的なツアー商品造成

が実現する等、少しずつプロモーションの効果が出始めていると聞いている。プロモーション強化や航空会社等との関係性を密にしながら、旅行商品造成へ繋げていきたいと考えている。引き続き、連携での取組をお願い申し上げる。

<協議事項 1・2 に対するコメント>

(久元市長)

2号館に予定している国際ラグジュアリーホテルについて、小林産業労働部長から補助対象となるか前向きに検討していただく、要件確認ができれば速やかに手続きを進めると、非常に前向きな回答をいただいたこと、大変感謝申し上げます。

2号館のあとのプロジェクトは、フラワーロード、国際会館あたりより南で人の流れが寂しくなる。東遊園地の再整備後は、朝や日中はかなり人通りが増え、GLION ARENA ができ、イベントがあるときは人の流れが増えている。本格的な人の流れ、回遊性を作るにあたり、市役所2号館のプロジェクトが不可欠であり、ホテルや商業施設が入るというプロジェクトを計画してきた。兵庫県から力強いご支援をいただくことは、これらを前に進めることができる大きな機運となる。感謝申し上げます。

県民まちなみ緑化事業について、既に東遊園地、磯上公園、サンキタ広場等に充当させていただいているが、第5期事業でさらなる拡充を検討していただくこと、非常にありがたい話。これについては、議会からもよく意見をいただいているため、第5期事業でさらなる活用をさせていただきたいと考える。

(齋藤知事)

ラグジュアリーホテルへの支援については、久元市長のおっしゃるとおり、三宮の回遊性を作って行く意味で非常に大事なポイントだと考えるので、しっかり前に進めてまいりたい。GLION ARENA ができ、イベントごとに人の流れが目に見えて変わってきているので、しっかりやっていくことが大事だと考える。

三宮と元町について、県庁周辺も相樂園や神戸市関連のすばらしい施設もあるため、一体的な回遊性を確保するということも努力し、三宮と元町双方がにぎわいがさらにアップしていけるようしていきたい。

神戸空港の国際化について、神戸市の尽力で着実に稼働が上手くいっているため、神戸以西のアウトバウンド創出、兵庫県へのインバウンド誘客ができる取組をこれからしっかりやっていく。

空港の経路が変わり、淡路等の地元対策をこれからも丁寧に行うことで2030年に向けた取組を前に進められるよう、努力していく。

<協議項目 3-I 多様な高校教育環境の維持 説明>

(西尾企画調整局長)

2026年4月から私立高校の授業料無償化が補助上限45万7,000円で開始されるが、大阪府は補助上限を63万円としており、大阪府と兵庫県の授業料負担の格差が依然として残

っている。加えて、大阪府の私立高校では授業料増額改定を行い、教育環境の一層の充実を図っていると想像される。大阪府独自の高校授業料無償化の影響により、兵庫県内の高校の競争力が低下することのないよう、また兵庫県内の多様な高校教育環境が失われることがないよう、県立高校はもとより私立高校も含めた抜本的な対応策の検討を行っていただき、実効性のある取組を早急に実施していただきたい。

<協議事項 3 - II 特殊詐欺被害対策の推進 説明>

(田中県民生活部長)

特殊詐欺の被害は、令和6年に被害件数、被害額ともに過去最高を更新した。今年も1～10月の合計で昨年1年間の合計を既に上回っている状況である。内訳を見ると、偽警察詐欺が急増しており、被害者年齢層も高齢者中心から全世代に拡大している。

県では今年度から特殊詐欺対策課という専門の課を設置し、外付け自動録音機の無償配布、AIを活用した講習会、SNSやホームページ等での知事メッセージ動画の配信等、対策を強化している。

特殊詐欺多発警報の運用を10月1日から開始した。これは被害が急増している県民局、県民センター単位の地域ごとに住民、県と市町、警察、金融機関やコンビニ等の民間企業で連携し、集中的に注意喚起を図るものである。

神戸市において、市民への特殊詐欺に対する周知・啓発、県が行う啓発イベント等への協力をお願いしたい。

今度、神戸地域に警報が発令された際には、市のSNS等の広報ツール、施設等のデジタルサイネージ等での集中的な注意喚起をお願いしたい。

<協議事項 4 - I 森林の適正管理の推進 説明>

(原建設局長)

神戸市で森林整備を進めるにあたり、県民緑税や森林環境譲与税等を使途に応じて活用している。特に県民緑税は、平成28年に創設していただいた「都市山防災林整備」による六甲山系の広葉樹林の防災機能強化に活用できている。しかしながら、神戸市には六甲山系以外にも市街地や重要インフラが近接する森林が存在しており、これらの防災機能向上も急務となっている。

現在、神戸市では、六甲山森林整備戦略の改定を進めているところであり、対象とする森林を六甲山系から全市域に拡大をしていく予定をしている。ついては、県民緑税の災害に強い森づくりの次期対策において、都市山防災林整備の対象区域の拡大、予算規模の拡充についてご配慮をいただくようお願い申し上げます。

(守本農林水産部長)

「災害に強い森づくり事業」だが、財源となる県民緑税の延長が9月の県議会で可決された。次期対策については、六甲山系に近い帝釈・丹上山系をはじめ、市内の都市山部の大半が対象となるよう区域を拡大する。予算についても増額し、市が進める都市山整備を

強力に支援する方針である。

これからは森林の多面的機能や整備の重要性について、市民や企業の理解醸成が重要であり、シンポジウムの開催をはじめ様々な啓発活動に取り組んでいるところである。11月には県立神戸甲北高校で実施した出前授業では黒田副市長のご講義も交え、護林の役割から木材利用まで幅広く学んでいただいた。学校からも大変好評いただいた。

県市合同での取組として、引き続き連携をお願いしたいと考えている。また、将来に向け、県市の森林行政に携わる職員のスキルアップも重要と考えている。森林防災や公共建築物の木材利用等、お互いが持つノウハウを補完しあいながた人材育成に繋げていけるようご協力をお願いする。

<協議事項 4－Ⅱ 河川の維持管理の強化 説明>

(原建設局長)

近年気候変動が影響し、今後も降雨量の増加や河川流量の増大が予想される。そのため河川の適切な維持管理がますます需要となってくる。河川内に樹木や草が繁茂すると流水を阻害し、河道の閉鎖を引き起こす可能性もある。河川周辺的生活環境の悪化、隣接道路の通行に支障が生じる恐れもある。兵庫県においては、これまでも河川内の土砂の撤去や樹木の伐採等にご尽力いただいているが、今後さらに治水上支障のある箇所における堆積土砂の撤去や、樹木の伐採を推進するための予算の拡充をお願いしたい。

併せて、河川環境の美化と生活環境の保全を目的とした伐採や除草を進めるための予算拡充についても重ねてお願い申し上げる。

<協議事項 4－Ⅲ 自然共生社会の推進 説明>

(柏木環境局長)

クビアカツヤカミキリ、ナガエツルノゲイトウ等の特定外来生物対策について、公式LINE 通報システム等を導入し対策に取り組んでいるが、分布が拡大している。

ニホンジカについては、AI 映像分析によるリアルタイム通報機能を搭載したセンサーカメラ等を活用して対応しているが、低密度ながら定着が確認されている状況。

これまでも県市で連携して取り組んでいるが、今後も専門家の知見や研究成果を取り入れる等拡大防止・根絶に向け、一層の連携をお願いしたい。特にツヤハダゴマダラカミキリについては特定外来生物対策地域部会の中で神戸部会以外では対象としていないと聞いているため、広域防除を進めるための分布調査や連絡体制の整備をお願いしたい。

(福山環境部長)

特定外来生物対策だが、神戸市は非常に熱心に日頃から取り組んでいただき、本当に感謝申し上げます。しかしじわじわと分布が拡大しており、神戸市内でも今年度クビアカツヤカミキリが新たに3区で発見されたという状況である。引き続き、積極的に主体的な防除の実施、都市部での防除方法等、知見の共有をお願い申し上げます。

県では KISS FM によく出演されているターザン山下さん出演の啓発動画を作成している。

広くPRに活用いただければと思うので、宜しくお願い申し上げます。

ツキノワグマだが、近年県南部でも目撃・痕跡情報が報告されている。情報を受けた場合、県の森林動物研究センターによる現地調査を速やかに行うこととしているため、迅速な情報共有をお願いしたい。

<協議事項3—I 多様な高校教育環境の維持 回答>

(藤原教育長)

「県立高校の魅力づくり」ということで資料をまとめている。県立高校では、築40年を経過した学校施設が8割を占めており老朽化が進行している、また近年の猛暑の深刻化に伴い、空調設備が必要不可欠である。さらには施設環境に求められる機能のアップデートも必要となっている。現在、空調整備や長寿命化改修、備品の整備等を一定の計画を定めて進めているが、より魅力ある学校としていくため、特別教室や体育館、食堂等、空調が未整備となっている学校に対する今後の計画的な整備を検討していきたい。

学校施設での環境整備は魅力アップに繋がる。これについても計画的な整備を検討していきたい。

「県立高校の教育改革第三次実施計画の推進」について、令和4年3月に第三次実施計画を策定し、「魅力と特色づくりの推進」という1つの柱立て、「全日制高校の望ましい規模と配置」、「入学者選抜制度・方法の工夫と改善」の3本柱で第三次実施計画を推進している。一方で社会経済情勢の変化等を踏まえ、さらに県立高校の魅力の再構築が必要と考えている。現在地方部における小規模校の活性化や遠隔授業の本格手な実施、探究活動の充実、職業学科への計画的な先端機器の整備、教育DXの推進等の取組を検討していきたいと考えている。

今年度国で高校教育改革のグランドデザインを示すことになっている。既に骨子案が出ているが、それを踏まえ各都道府県で来年度、高校教育改革の充実に向けた計画をすることになっているため、これらの取組をいれながら、さらなる兵庫県としての県立高校の魅力づくりに取り組んでまいりたい。

(有田総務部長)

私立高校関係について回答させていただく。

私立高校は多くの伝統校が建学の精神に基づく魅力ある教育を行っており、高校教育の一翼を担っている状況である。県としては、今後とも経常費補助等の安定した学校運営及び教育の質の向上に資する支援、授業料等の生徒保護者の負担軽減を図る支援、この2つの支援策のバランスを取りながら、私立高校における教育の充実に取り組んでいきたいと考えている。

令和7年2月に私立高校の魅力向上に係る検討会を設置し、有識者や私学関係者とともに現状の分析、課題共有を行い、国の高校授業料無償化の議論も踏まえながら私立高校の魅力向上させるための取組等について意見交換を行い、県内私立高校が県内外から選ばれる学校としてどのような取組、支援が必要か検討してきた。

今後、15歳人口はさらに減少していくという状況である。私立高校の生徒確保も厳しくなっていく中で、私学の魅力、強みである「特色ある教育」のさらなる磨き上げ、人材確保対策を踏まえた学校運営支援、生徒保護者の負担軽減等が必要であるのご意見をいただいているため、県としてどのような支援ができるが予算編成の中で検討していきたいと考えている。

<協議事項3-Ⅱ 特殊詐欺被害対策の推進 回答>

(上山危機管理監兼局長)

特殊詐欺対策としては、これまで自動録音等の機能を有する電話の購入補助、それに係る広報、県の実施する講師派遣制度の利用促進等、県市協調で取り組んできた。

運用を新たに設定された特殊詐欺多発警報発令時の対応についても、SNS等による情報発信やデジタルサイネージを活用した注意喚起において既に県所管課と調整を行っている。

引き続き、各区で実施している街頭キャンペーンや配布物による注意喚起、出前講座やセミナー、区民集会、防犯落語等のイベント、消費者センターによる広報に取り組んでいく。

兵庫県においても、特殊詐欺対策が他の市町、警察機関、民営機関等も含めた総合的な取組となるよう、引き続き調整をお願いしたい。

<協議事項4-I 森林の適正管理の推進 回答>

(原建設局長)

都市山防災林整備について、対象区域の拡大と予算増額の方針を示していただき感謝申し上げます。引き続き、兵庫県と積極的に連携しながら災害に強い森づくり事業をさらに推進してまいりたい。

森林の多面的機能、森林整備の重要性、県民緑税の役割について、理解の醸成が必要であるということは神戸市としても認識している。神戸市においても、森林に関するフォーラムの開催や各学校での出前授業等、様々な取組を実施しているところであり、人材育成の面も含め引き続き県市で連携させていただきよう、お願い申し上げます。

(竹森教育委員会事務局長兼教育次長)

学校教育との関係だが、市立小中学校ではこれまでの社会等の授業の中で、自然環境の保全や土砂災害の防止等についての学習に取り組んできている。

市内には学校が管理する学校林を有する学校もあるため、そのような資源を活用しながら、引き続き森林環境について理解と関心を深める学びを推進してまいりたい。

<協議事項4-Ⅱ 河川の維持管理の強化 回答>

(宇野土木部長)

県では河川団円の確保のための堆積土砂撤去、地元河川については、人家が密集する地区や、放置すればさらなる土砂堆積が見込まれる河川合流点付近等で財政的に有利な「緊

急浚渫事業債」を活用し実施していることである。今年度は明石川の玉津町出合地区、伊川の伊川谷町潤和地区において、堆積土砂撤去、樹木伐採を実施する。

緊急浚渫事業債の事業期間について、令和 11 年度まで延長されたことを踏まえ、令和 8 年以降も継続して予算確保に努めてまいる。

一方で、治水面だけでなく、河川環境の美化や生活環境の保全も重要であり、県市が共同で負担する河川環境整備事業による市内約 100 km の除草等を行っているところである。

伊川の伊川谷町上脇地区等、新たな除草が必要と判断される箇所については、県市で調整を図りながら事業範囲の拡大に努めてまいりたい。

今後も県市が連携し、河川の維持管理の強化に取り組んでまいりたい。

<協議事項 4－Ⅲ 自然共生社会の推進 回答>

(福山環境部長)

ナガエツルノゲイトウやクビアカツヤカミキリ等、特定外来生物の分布が県内で拡大している。早急に抜本的な対策を実施しかつ中長期的に取り組むことが必要であると考え。このため、県では 8 月に知事を本部長とする対策本部を設置し、本日第 2 回対策本部会議を開催し、今後の取組方針等を検討したところである。地域主体かつスピード感のある対応を行うため、11 月 17 日に同本部会議の神戸地域部会を開催し、県市の取組状況を共有したほか、神戸地域ではツヤハダゴマダラカミキリも検討対象とした。

今後も必要に応じて他地区とも情報共有を図る等、県市連携の取組を強化していく。

県南部にもニホンジカの分布域が拡大しているため、神戸市及び隣接防止の実務担当者による県南地域ニホンジカ・ツキノワグマ分布拡大防止対策会議を開催する。会議では、ニホンジカの計測情報やツキノワグマの目撃・痕跡情報の共有、森林動物センターの知見に基づく対応等について検討を行う。

市町による獣害防止柵の整備や有害捕獲の実施体制の構築を支援していく。

特定外来生物や野生鳥獣対策に当たっては、兵庫県立大学等による専門的知見からの協力について、引き続き対応したいと考えている。

神戸市においては、都市部と農村部が近接する地域事情から得られた知見について、県への提供をお願い申し上げる。

(柏木環境局長)

外来生物防除対策については、今後も兵庫県や近隣の市町等とも連携し積極的に推進してまいりたい。神戸市で新たに把握した生息情報や知見等については、引き続き兵庫県へ共有させていただく。

兵庫県で作成された啓発動画については、市のホームページに掲載しており、外来生物展示センターでも放映しているが、他にも活用機会がないか検討してまいりたい。

(大畑経済観光局長)

ツキノワグマの被害対策強化の関係について回答させていただく。

これまでも熊らしき足跡、糞といった痕跡情報について共有させていただき、現地調査等にご対応いただき感謝申し上げます。結果、熊ではなかったが、県南部への分布が拡大するという状況であるため、神戸市としても状況を注視し、今後目撃、痕跡情報について適時適切に情報共有を行っていくため、専門的見地からの対応をお願い申し上げます。

<協議事項 3・4 に対するコメント>

(久元市長)

大阪府の高校授業料無償化について、神戸市は相当危惧している。

神戸の高校生が大阪に流出をすることによって、市内の県立高校、市立高校、私立高校に対する志願者が減る。それにより教育水準が低下する。教育水準が低下すると志願者が減るといふ悪循環に陥らないか。確証はないが、こういうことにならないようにしないといけない。

建学精神をそれぞれ持つ多様な私立の高校があり、非常に伝統ある県立高校がある。多様な高校が存在しているということが、教育環境だけでなく、高校生の皆さんが様々な地域活動に参加することで、まちの活力活性化の大きな立役者になってもらっているということが非常に大事である。多様な高校教育環境を守っていかないといけないということを変に心配している。

先ほど、総務部長から私立高校の人材確保のための学校支援、生徒保護者の負担軽減が必要であるという意見を検討会議で検討いただき、県として支援できることを予算編成の中で検討していただくというお話をいただき、大変ありがたく思う。ぜひ積極的な検討をお願い申し上げます。

(齋藤知事)

高校教育環境の問題、本当に大事な問題だと考える。兵庫県は、7割が公立高校、3割が私立高校に通われているのが大まかな状況である。

公立高校、私立高校ともに兵庫県は教育水準が高く、多彩な教育を提供できる学校が多いのが兵庫県、神戸市の魅力であると考えます。

兵庫県としては、まずは県立高校、特別支援学校の環境を良くしていくということを大きな柱にしつつ、私学高校については、授業料よりも特色のある教育を受けるところを保護者の方に思考されているところもあると考えるため、私学特有の良さを伸ばしていくという意味で、グローバル化、環境整備を含めてしっかり支援していくことが大事となる。

<協議事項 4 - II 河川の維持管理の強化について>

(齋藤知事)

市、市長からご指摘いただいているとおり、住民の皆さんにとって安全・安心の意味で、近くの河川が草が繁茂しており森のようになっているとリスクが強いという懸念がある。国の有利な財源も延長されたため、きちんと対応してまいりたい。

【意見交換】

(山口県議会議長)

私から2点申し上げたい。

1点目が、神戸空港の国際化を踏まえた取組みということで、アフター万博の話。万博は終わったわけだが、多くの学びであったり、交流が生まれた中で、兵庫県で取り組んだフィールドパビリオンを磨き上げていこうとする、誘客するためにバスツアーの助成を行う。今般、播磨の方で養殖マガキが不漁ということで、業者の方々が苦慮されている。そこで、県として応援パッケージとして西播磨に誘客をとということで、12月補正を行った。神戸市と兵庫県でしっかり連携を取りながら、神戸空港の国際化を見据えて、国内外からの誘客、地域の活性化、経済成長にしっかり取り組んでいただきたいということを申し上げる。

2点目は特殊詐欺被害対策の推進の件。

昨年度、過去最悪の32.7億円の大きな被害があり、10月1日から特殊詐欺対応多発警報の運用が開始されている。県警と兵庫県、神戸市でしっかり連携を取りながら、地域住民の安全・安心を担保していくことが大切だと思うので取り組んでいただきたい。

(大豊県議会副議長)

1点発言させていただく。

自然共生社会の推進の件について、県内で特定外来生物、特にナガエツルノゲイトウやクビアカツヤカミキリの分布が拡大している。県では、8月に外来生物対策本部を設置して、全庁横断的にやるということになっている。また、県内各地に実情に応じた目標設定や指標を検討する必要があることから、県民局と県民センターにおいて地域部会というのを設置して検討している。神戸地域では、神戸地域部会が設置されており、現地と連携した取組みが進められているところである。

神戸市でもLINE等による通報やスマートフォンアプリを活用した市民参画型調査等既に取り組まれている。既に連携も進んでいるようだが、さらに引き続いて情報共有や早期発見、早期通報に向けた普及、啓発に取り組んでいただきたい。生物には行政界はないので、しっかりと連携していきたいと思っている。

また、外来生物ではないが、鹿、イノシシの生息が拡大し、農作物の被害も深刻化している。最近ではツキノワグマも心配されるようになったということで、単なる駆除や排除だけではなく、野生動物の適正管理や生存環境の保全、農業被害を減らすための保護柵、電気柵の設置等、人との共生を目指すという取組についてもしっかりと連携していきたいと思っている。

(菅野市会議長)

県市協調していくうえで3点、意見を申し上げたい。

三宮の再開発について、非常に兵庫県から格別のご支援をいただいていることに感謝申し上げます。その中で、兵庫県では県庁舎のあり方等に関する検討会での議論を踏まえて、

新庁舎等の整備プロジェクト基本構想案が作成されたとお聞きしたが、県庁舎やモトキタエリアの再整備は、本市が取り組む三宮の再整備や元町の駅周辺のリニューアルプランの検討を相乗効果が発揮できるよう連携を取っていただきたいと思っている。

特に元町駅の周辺は土日になると、通行往来が激しく、歩道がまともに通れず動線をどうするのかということもある。整備について全体像を加味してやらなければいけないと思っているため、元町エリア全体を魅力的な町とし、都心の活性化に繋がるよう、県市一体で取り組んでいただきたい。

次にコベカツについて。部活動の地域展開について、当初神戸市が先行して進めていたが、現在、兵庫県下の自治体でも部活動の地域展開に対して取り組まれている。本市でもコベカツ移行に伴い、従来の部活動では不要であった交通費や会費による保護者負担が増え、家庭の事情等で子どもたちの活動が制限されてしまうことが懸念されている。国において、早急に地域展開で発生する費用負担の考え方を明確にし、必要とする費用に対する財政支援を行うよう働きかけていく必要があると思っているので、県市協調で要望してまいりたい。

最後に、ひょうごフィールドパビリオンに関連したことで、兵庫津ミュージアムの活性化について、一言コメントさせていただく。

兵庫津ミュージアムは、本市が土地を無償提供して開館された経緯もある。当初は県内の校外学習等で利用し、兵庫運河周辺の活性化に寄与していこうということで取り組んでいた。取組やイベントを行っていただき多くの方を集っていただいたが、日常的に来館者が増える状況ではない。フィールドパビリオンの施策の中で助成補助等、学校関係も含めて補助していただき、兵庫津ミュージアムのさらなる集客の強化も進めたい。

(川内副議長)

2点申し上げたい。

1点目は、自然共生社会の推進について。

近年、ツキノワグマの分布が拡大しており、神戸市内では出没が確認されていないが、三田市・宝塚市等近隣市で出没が確認されており、神戸市内に侵入する可能性が高まってきている。人間の生活様式の変化や森林管理の担い手不足等から里山の荒廃が進み、里山と人里との境界が崩れてきているのも事実である。里山を再生し、鳥獣と人間の共生を図るためにも、県市一体となった取り組みをお願いしたい。

また、ツキノワグマの駆除について、4月に神戸隣接市・町長懇話会として齋藤知事に要望したと伺っているが、神戸市の猟友会ではクマ撃ちのノウハウを有していないため、専門家による平時からのノウハウの共有や、出没時の派遣についてご協力をお願いしたい。

2点目は多様な高校教育環境の維持について、重ねてお願いをしたい。

大阪府の高校授業料無償化の影響により、兵庫県内の私立高校の競争力が低下する恐れがあることに強い危機感を抱いている。保護者の授業料負担の格差だけではなく、大阪府の私立高校では、無償化後にもともと63万円以下の授業料だった学校の4割以上が授業料の

値上げをし、大阪府の私立高校では教育の質や環境整備が充実してきている。兵庫県では、私立高校の魅力向上に係る検討会にてご議論いただいているところではあるが、ボリューム感のある財政支援を実行性のある取り組みをお願いしたい。

(久元市長)

養殖カキの被害、これは今までにないよう大きな被害である。神戸市はカキの養殖はないが、私どもも大変憂慮している。

先ほど山口議長から西播磨への支援のお話があったが、観光キャンペーンのようなものについての神戸市の協力という風に受け止めた。兵庫県としてまとまった形で西播磨を訪れようというキャンペーン、支援をされるのであれば、ぜひ神戸市としても協力させていただきたいと思うので、具体的なキャンペーンがまとまれば、教えていただきたい。

神戸市役所のサイネージは相当大きくなり、市内のサイネージも郊外を含めて増やしたいと検討しているところである。今もサイネージなど広報手段は持っているため、神戸観光局とも連携して進めていきたいと思っている。まとまりましたらお話を聞かせていただきたい。

(齋藤知事)

市長から心強いお言葉をいただき御礼申し上げます。西播磨のカキ養殖について、たつの市、相生市、赤穂市、主にこの3つの地域でカキの不漁が大きくなっている。先般、赤穂に行ったが、やはり漁業者のみなさんにとって心配な状況になっている。

先日の補正予算で資金繰りの支援等、兵庫県としてできることはしっかりやらせていただいている。これからもやっていくと同時に、観光による集客。カキ以外にも素晴らしいものがたくさん西播磨地域にはある。昨日、赤穂で義士祭があり、プライベートで行かせていただいた。大変多くの皆様が県外から来られていて、カキも食べられた。完全に食べられないというわけではないので、風評につながりつつあるところを、年明け以降カキを食べに来られる人に、生育状況にもよるが、昨年 の 冷凍等も使って食べられるように工夫はされていると思う。その辺りをぜひ我々もツアー造成に向けた支援を9月補正で用意させていただいており、誘客キャンペーンをやっていきたいと考えているので、お力添えをいただきたい。

神戸市のデジタルサイネージでは、以前の会議で、県立の森林大学の生徒が今年20名のうち1人しか応募されていないという状況を説明させていただいたところ、久元市長から早速神戸市でいろんな形でPRをしていただき、実際に入学に繋がった生徒さんもおられるという報告を受けている。ぜひ西播磨の観光PRにもお力をいただけたらと思うので、よろしく願います。

菅野議長からお話いただいた、兵庫津ミュージアムについては、ご指摘のとおりいろんなイベントを指定管理者と連携しながらやらせていただいている。例えばレゴであったり、イベントごとに非常に多くのお客さんに来ていただいているが、やはり通年化が大事

だと思っているため、例えば自治会であったり教育であったり、学生やシニアや現役世代の方に通年で来ていただけるような取り組みをこれからもやっていきたいと考える。

川内副議長からお話いただいた、ツキノワグマをはじめとする鳥獣被害については、今年も東北で大きな被害があったが、兵庫県はドングリが豊作だったということもあって、結果的には春先よりも全然出てきていないという状況。けれども、これは波があり、来年は注意しないとイケない年になるかもしれないので、神戸市そして阪神間の首長会でも話が出たように、県の方で研究センターに全国的にもトップクラスの知見があるため、共有しながら対策をしっかりとやっていきたい。

【総括コメント】

(久元市長)

今日は、自然との共生、動物・植物、両方にまたがる話が多くあった。この問題はやはりこれからも続くだろうと、粘り強く息の長い取り組みをしていかなければいけないと感じる。ツキノワグマが非常に大きな話題になっているが、ニホンジカやイノシシの被害、神戸でも北区にはニホンザルが出て人を追いかけてまわしたりすることも起きている。外来生物について、アライグマへの対応を神戸市は一生懸命行っており、徹底的に駆除するというところでやっている。

外来生物については、ナガエツルノゲイトウやツヤハダゴマダラカミキリ等の対策を神戸市も相当力を入れてやってきている。こういう取り組みを継続して行うためには、やはり専門的な知見、それから経験を持った人材の育成というのが非常に大事で、兵庫県は森林動物研究センターに全国的にもテレビにもよく出られているような研究者の方がおられると。

これまでの兵庫県の息の長い取り組みが、他の自治体はそこまで取り組まれていないような蓄積をされてきたことは、県民に一定の安心感を与えているのではないかと考えている。

神戸市も、鳥獣対策の担当課はあるが、専門的な職員がいなかったため公募し、長く有害鳥獣対策をやってきた職員を新たに外部から起用することにした。兵庫県には全国的に稀な、センターだけでなく兵庫県庁の中にも専門的な経験を有する職員がいらっしゃると伺っているので、引き続き助言、アドバイス、ご指導をお願いできればと思っている。

(齋藤知事)

今日は多彩な意見交換ができて大変実のある場だったと考える。

市長からもおっしゃっていただいたとおり、自然との共生というものがこれから大事な社会になってくる。兵庫県全体も自然が非常に豊かなところだが、神戸市も三宮、元町だけではなく、多彩な自然を有するのが神戸市の魅力でもある。

先日、新神戸の布引の滝を歩く機会があったが、非常に多くのお客さんにトレッキングに来ていただいていた。そこも神戸の魅力の1つだと思う。六甲山系のこれからの保全をやっていくことは、市長が前からおっしゃっていたことだが、大事なところで、誘客の意

味でも大事である。

カキの話は山口議長からいただいたが、いかなごも獲れなくなっている。夏の暑さでお米も獲れなくなっている。我々は「コ・ノ・ホ・シ」という新品種を導入させていただいたが、食料安全保障の観点からも、高温や環境の変化に応じて質をどう確保していくのかということや、森林の保全も本当に大事になってくる。鳥獣等の対策も大事と考える。

やはり農林水産業というものが、これから兵庫県にとっても神戸市にとっても大事な施策の1つになってくると考えるので、兵庫県と神戸市が三宮等の再開発や神戸空港の国際化のみならず、農林水産業の観点からもさらなる連携をしていくことが大事だと思うので、よろしくをお願いしたい。